

2020年度（令和2年度）

学校評価自己評価表

福山市立手城小学校

2021年（令和3年）2月 16日

2020年度(令和2年度)学校評価自己評価表

東中学校区	校番 6	福山市立手城小学校
最終更新日		2021年(令和3年)2月16日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・中学校区で課題を的確にとらえ、目標を共有し、授業改善に取り組んでいる。	児童生徒の現状 ・考えや思いを伝え合うコミュニケーション能力や相手を思いやる心が育ちつつある。 ・自ら課題を発見し、解決しようとする意欲や課題解決のための情報収集力に課題がある。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	課題発見・解決力、表現する力、認め合う態度 自己を認識する力、自己決定する力、表現する力をもった子 ・学びを楽しむ児童の育成(主体的な学びの推進) ・よりよい生活を考える行動する児童の育成(長期欠席者ゼロへの取り組み) ・社会に貢献する児童の育成(E S D教育への取り組み)
---	---	---	--

III 自校

ミッション 学校・地域・家庭が一体となって「ふるさと福山」に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる手城の子どもを育てる。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”)	課題発見・解決力	表現する力	認め合う態度
学校教育目標 自他を認め合い、主体的に生きる力をもった児童の育成	めざす子ども像	低学年 学習や生活の中から進んでふしぎを見つけ出す子	自分の思いや考えを、進んで相手に伝える子	友達の気持ちが分かる子
現状 ＜児童生徒＞ ・標準学力調査において、全国平均を上回ることができた項目は、62.5%であった。基礎学力は定着しつつあるが、思考力・表現力に課題がある。 ・自ら課題を見付け追及したり、コミュニケーションをとりながら学び合い、表現活動をしたりに課題がある。 ・校内では、規律ある行動ができ、落ち着いた学校生活を送ることはできている。一方で、校外での生活は、校内の生活が生かされていない。また、自分に自信の持てない児童もおり、自己有用感を高めていく必要がある。 ・新体力テストにおいて、県平均以上の項目は49%であった。特に50m走に課題がある。長期欠席者は減少しているが、欠席する児童は固定化している。 ＜授業＞ ・主体的な学びを実現するために、教師の授業力を高めていく必要がある。 ・体験的活動や協同的学習の場や工夫が不十分である。	中学年 進んで学習のめあてを考え、課題を解決する子	進んで学習のめあてを考え、課題を解決する子	ペアやグループで、互いの思いや考えを伝え合う子	相手のことを思いやり、進んで親切にする子
	高学年 自分なりの発想を生かして課題を設定し、見通しをもって解決する子	自分なりの発想を生かして課題を設定し、見通しをもって解決する子	伝え合いを通して、自分や友だちの考えをよりよいものにする子	だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立つて親切にする子
研究	教科等 主題・内容等	道徳 図画工作 自己を見つめ、よりよく生きようとする児童の育成 自ら考え学び、自分の思いを生き生きと表現できる児童の育成		
めざす授業の姿	『学び合い』によって学びを楽しむ子どもを育てる授業 ・児童同士で授業内容を説明し合っている。(思いやりのある関わりがある) ・課題解決に向けて、主体的・協働的に考えている姿がある。			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立手城小学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)					
							口指標に係る取組状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	改善方策	口指標に係る取組状況 ◎短期中期経営目標の達成状況	70% 達成 評価	70% 達成 評価	総合 評価	改善方策	
1	主体的な学び の推進 学びを楽しむ 児童の育成	★	新規	「学び 合い」学 習を全 教室展 開	○学び合い学習 に取り組む授 業を70%以 上の実施。	○授業が楽 しいと答 える児童 が90% 以上。 ○よくわか ると答 える児童 が85% 以上。	【授業が楽しい】 学び合い学習に取り組み、 児童が主体的に学習に取り 組んだり、関わりをもった りできるようにしている。	4	4	◎継続して、学び合 い学習に取り組んでい くために、提示する問題 や発問の精選に取り組 んでいく。また、学び 合いに取り組みつつ、 児童に力をつけてい けるように、個に応じた 支援を行っていく。	【授業が楽しい】	4	4	継続して、学び合 い学習に取り組 んでいくために、 提示する問題や 発問の精選に取 り組んでいく。ま た、確実に力が付 いたと実感でき るように、学習後 に練習問題に取 り組んでいく。		
							【学習内容がよくわかる】 わからないところは、友達 同士で説明し合うことで課 題を解決できるように、学 び合いを取り入れている。		◎継続して、学び合 い学習に取り組んでい くために、提示する問題 や発問の精選に取り組 んでいく。また、学び 合いに取り組みつつ、 児童に力をつけてい けるように、個に応じた 支援を行っていく。	【学習内容がよくわかる】 わからないところは、友達 同士で説明し合うことで課 題を解決できるように、学 び合いを取り入れている。					◎継続して、学び合 い学習に取り組んでい くために、提示する問題 や発問の精選に取り組 んでいく。また、学び 合いに取り組みつつ、 児童に力をつけてい けるように、個に応じた 支援を行っていく。	【学習内容がよくわかる】 わからないところは、友達 同士で説明し合うことで課 題を解決できるように、学 び合いを取り入れている。
			新規	家庭学 習の個 別化・自 己決定	○週2回以上、自 分の学習課題を もとにチャレ ンジノートに取 組む内容を決め る	○自分で選 ぶことが できる児 童が 70%以 上。 ○家庭学習 の計画を たてるこ とができ る児童 が60% 以上。	【課題を選ぶことができ る】 課題の出し方を、ある程度 の量と期間を決めて取り組 ませたり、テストやプリン トなどをもとに課題を設定 させたり工夫をしている。	4	4	◎継続して、課題の出 し方や自分で課題設定 ができるように工夫し ていく。また、友達の チャレンジノートを見 る機会を作るなど、児 童同士で取り組みを見 直すことができるよ うにしてい	【課題を選ぶことができる】	4	4	継続して、課題の 出し方や自分で課 題設定ができるよ うに、ポートフォ リオを活用して、 自分の課題を明確 にしてい		
						【家庭学習の計画を立てる ことができる】 計画表を活用したり、自分 で宿題を考えたりする取 組みをしているので、学習 の計画を立てることが できるようになっている。		◎継続して、計画表を 活用したり、自分に宿 題を出したりする取 組みを行っていく。	【家庭学習の計画を立てることができる】 計画表を活用したり、自分 で宿題を考えたりする取 組みをしているので、学習 の計画を立てることが できるようになっている。		◎継続して、計画表を 活用したり、自分に宿 題を出したりする取 組みを行っていく。				【家庭学習の計画を立てることができる】 計画表を活用したり、自分 で宿題を考えたりする取 組みをしているので、学習 の計画を立てることが できるようになっている。	

1	★	継続	<p>長期欠席者ゼロへの取組</p> <p>よりよい生活を考え、行動する児童の育成</p>	<p>自己有用感を児童が育む活動</p>	<p>○全校で学期に1回以上よいところ見つけの活動に取り組む。(各学級では月1回以上)</p> <p>○自分にはよいところがある児童が90%以上</p> <p>○学校が楽しいと答える児童が90%以上</p>	<p>【自分にはよいところがある】</p> <p>【学校が楽しい】</p> <p>6月・7月の児童会目標として、友だちのよいところみつけをし、1階廊下に掲示したり、放送したりして紹介した。各学級でもよいところみつけをしたり、毎週金曜日に自分が成長したこと振り返りを書いたりして、自分のよさにも気づけるようにした。</p>	3	3	<p>◎たてわり活動で頑張っている人を見つけ、賞状をあげたり、放送で紹介したり、手紙をあげたりする。</p> <p>◎各学級でよいところみつけを継続して行い、視覚化していく。</p>	<p>【自分にはよいところがある】</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>達成率</td><td>95</td><td>87</td><td>92</td><td>91</td><td>92</td><td>84</td><td>91</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>105</td><td>97</td><td>102</td><td>101</td><td>102</td><td>93</td><td>101</td></tr> </table> <p>□各クラスで、友達のよいところ見つけをしたり、認め合いポストを設置し、友達の頑張りをお手紙で届けたりするなどの工夫を凝らした取り組みをしている。また、「よさ」ということについて理解をしたり、自分のよさを見つけたりする活動をすることで、児童の意識が高まった。</p> <p>【学校が楽しい】</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>達成率</td><td>93</td><td>98</td><td>99</td><td>95</td><td>95</td><td>91</td><td>95</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>103</td><td>108</td><td>110</td><td>105</td><td>105</td><td>101</td><td>105</td></tr> </table> <p>□低学年は、学級での雰囲気づくりのための取り組みや、子どもたちと先生と一緒に遊んだり、話をしたりする活動をした。高学年は、人間関係づくりや子ども同士の繋がりがつくりをすることで、安心できる居場所ができた。また、なかよし集会や体育参観日等の行事も、楽しいと感じる要因となった。</p>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成率	95	87	92	91	92	84	91	達成度	105	97	102	101	102	93	101		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成率	93	98	99	95	95	91	95	達成度	103	108	110	105	105	101	105	4	4	<p>自己肯定感を高めるためには、自他ともに認める心を育てる必要がある。「よかった見つけ」のように物事を多面的に捉えることも効果があると考えられる。</p> <p>よりよい生活をするために、自己選択して取り組むことはしてきたが、振り返りを充実させることで、より自己肯定感を高めることができるであろう。</p>
				1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																			
達成率	95	87	92	91	92	84	91																																																						
達成度	105	97	102	101	102	93	101																																																						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																						
達成率	93	98	99	95	95	91	95																																																						
達成度	103	108	110	105	105	101	105																																																						
		<p>自分の生活を自己管理する力</p>	<p>○学期に1回、睡眠時間と外遊びの回数の目標を設定させ、自分の生活課題を捉え、新たな生活目標を立てさせる。</p> <p>○規則正しい生活と体力づくり80%以上</p>	<p>【就寝・起床時刻を守れた児童】(1学期末)</p> <p>【外遊びできた児童】(1学期末)</p> <p>睡眠時間と外遊びの目標を設定させ、生活改善に向けた取組を行った。健康アップカードを活用することで、就寝・起床時刻を意識できるようにした。コロナ禍で、外遊びは難しい状況にあった。</p>	3	3	<p>◎早寝早起きについては、保護者にも意識してもらうため委員会や保健だより等で啓発していく。また、目標時刻が遅い児童が多かったので目標時刻を再度吟味させる。また、1学期の結果を基に、目標を設定させることで、意欲的に取り組めるようにしていく。</p>	<p>【就寝・起床時刻を守れた】</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>達成率</td><td>72</td><td>71</td><td>81</td><td>84</td><td>79</td><td>85</td><td>79</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>90</td><td>89</td><td>101</td><td>105</td><td>99</td><td>106</td><td>98</td></tr> </table> <p>□委員会や保健だより等で啓発して、1学期よりも意識できた児童が多かった。しかし、低学年を中心に達成率が低くなった。また、取組期間中はできていても日々の生活で生かされていない児童が多い。</p> <p>【外遊びできた児童】</p> <table border="1"> <tr><th></th><th>1年</th><th>2年</th><th>3年</th><th>4年</th><th>5年</th><th>6年</th><th>全校</th></tr> <tr><td>達成率</td><td>74</td><td>84</td><td>81</td><td>87</td><td>78</td><td>78</td><td>80</td></tr> <tr><td>達成度</td><td>93</td><td>105</td><td>101</td><td>109</td><td>98</td><td>98</td><td>100</td></tr> </table> <p>□委員会の放送や友だち同士の声掛けもあり、多くの児童が外遊びの目標を達成することができた。また、縦割り遊びやなわとび検定等、外遊びできる取組を行った効果も大きかった。</p>		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成率	72	71	81	84	79	85	79	達成度	90	89	101	105	99	106	98		1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校	達成率	74	84	81	87	78	78	80	達成度	93	105	101	109	98	98	100	4	3	<p>日々の生活で生かすためには、規則正しい生活と体力づくりの意義をしっかりと理解させ、習慣付けていく必要がある。そのために、取組の回数を増やしたり、取組期間を長くしたりする必要がある。</p> <p>外遊びの目標が低い児童が多い。主体的に外遊びできる児童を増やしていくために、委員会と連携して遊びを紹介する等、さらなる取組が必要である。</p>		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																						
達成率	72	71	81	84	79	85	79																																																						
達成度	90	89	101	105	99	106	98																																																						
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全校																																																						
達成率	74	84	81	87	78	78	80																																																						
達成度	93	105	101	109	98	98	100																																																						

1	ESD教育への取組 地域に関する児童の育成	継続	SDGsと関連付けたESD教育の推進	○SDGsのゴール17項目をカリキュラムマップ上に位置付け、教科等の関連を明確にした単元計画を作成する。	○全学年1単元以上の実施100%。	【SDGsと関連させた単元計画を作成する】 1学期に各学年でSDGsと関連した単元計画を組むことで、多くの児童が世界の問題に興味をもち、高学年を中心に行動へ移している児童も増えている。	3	3	◎継続して計画した単元計画を中心として各学年に推進させる。児童が自分事の課題として捉えられるような指導の工夫をした授業改善を行う。	【全学年1単元以上の実施】 実施率は100%。各学年2・3学期に教科と関連したESD教育を行ったことにより、社会的なSDGsへの認識や取組等が全児童へ認知された。	3	3	ESD教育を自分事として考え、主体的に行動できる児童にしていくために、1単元の学習で終わらすのではなく、総合的な学習の中に取り入れる等、教科横断的な学習をしていく必要がある。
			地域人材によって広げる学びの場の設定	○地域人材を活用したり、地域に関わったりする単元計画を立てる。	○年間2回以上実施100%。	【地域人材の活用】 コロナ禍のため十分にできていないが、密にならないこと等の配慮をしながらできそうなことから始めている。	3	2	◎出来る範囲で人材を活用しながら学習を進めていく。	【地域人材の活用】 今年はコロナ禍のため、地域の人材の活用はできていない。密にならないように地域に関連する学習を進めた。	3	2	
1	教職員の元気・笑顔	新規	元気に児童向う職場を作る。	○児童のためになができるかを常に語れる職員室にする。	○仕事に意義とやりがいを感じている教職員95%以上。	仕事と意義にやりがいを感じている教職員は96%であった。	4	4	◎継続して、定期的に学年会をもつなど、児童のために何ができるかを語り合う人間関係を大切に、計画的に見通しをもって取り組みを進めていく。	仕事と意義にやりがいを感じている教職員は97%であった。 定期的に学年会や部会をもち、児童のために何ができるかを話す機会をもった。	4	4	継続して児童のために何ができるか、定期的に学年会を持つなどして語り合う職場づくりと元気に児童と向き合える職場環境を作っていく。
				○1日の時間外勤務時間を2時間以内にする。	○時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員0人。	時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員の数はどの月も0人であった。	4	4	◎継続して、教頭と教務主任が事前に時間外勤務時間が月平均45時間を超えないように予定表を作成し、退勤時刻を職員に提示することで、計画的に見通しをもって業務を行うように声掛けを行っていく。	時間外勤務時間が月平均45時間を超える教職員の数はどの月も0人であった。 退勤時刻を職員に提示することで、計画的に見通しをもって業務を行うように声掛けを行った。	4	4	

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]	
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度 十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度 概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度 ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度 あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度 目標を達成できなかった。

別紙様式 3

2021年(令和3年)2月16日

福山市立手塚小学校長 様

東中学校区
学校関係者評価委員会

2020年度(令和2年度)学校関係者評価報告書

評価結果

評価項目	評価
1 中学校区や学校のめざす子ども像がよく分かった。	◎
2 中学校区や学校の児童生徒の現状や課題がよく分かった。	◎
3 学校が本年度何を重点目標として取り組むのかがよく分かった。	◎
4 短期経営目標や評価項目・指標等の達成状況がよく分かった。	◎
5 短期経営目標の自己評価結果に基づき改善方策がよく分かった。	◎
6 短期経営目標の自己評価結果に基づき改善方策を実行している。	◎
7 中学校区や学校は、教育活動に関する情報を、保護者・地域住民等に積極的に発信している。	◎
8 積極的な情報発信により、中学校区の学校・保護者・地域が互いに連携協力を深めている。	◎
【意見等】 ・「学び合い学習」の取り組みが、自己有用感の育成に取組む成果を上げている。 ・校区の小中学校カリキュラム目標と計画を共有し連携して取り組んでいる	

※ 評価基準

評価	基準	説明
◎	十分満足できると判断されるもの	「評価項目」に示されている状況を高い水準で達成していると考えられる。
○	おおむね満足できると判断されるもの	「評価項目」に示されている状況をおおむね達成していると考えられる。
△	努力を要すると判断されるもの	「評価項目」に示されている状況を達成していないと考えられる。